

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
教育支援スタッフ



チュウホク ドット コム

TEL 0551-23-3046
FAX 0551-23-3013

中北の地域社会 (COM munity)の心の交流 (COM munication)をめざします



～第3号の見出し～

- ◆ 活況!!第2回北杜ふれあい塾 ～北杜市生涯学習課主催「紫式部の生涯」講演会にて～
- ◆ 水曜はチームで取り組む地域貢献の日 ～甲府城西高校野球部～
- ◆ 図書館で豊かな時間を過ごそう ～昭和町立図書館イベントより～
- ◆ #中北バトン 一般社団法人甲府青年会議所 第73代理事長 東原 広幸

活況!!第2回北杜ふれあい塾

～北杜市生涯学習課主催
「紫式部の生涯」講演会にて～

8月24日土曜日の午後、甲斐駒センターせせらぎ(北杜市武川町)ホールで第2回北杜ふれあい塾が開かれました。北杜ふれあい塾は、年に4回開催されます。今回の内容は「紫式部の生涯」と題した文学研究家・栗原一郎氏による講演会でした。現在放映中の大河ドラマ「光る君へ」の主人公・紫式部についての講演ということもあり、会場は早い段階でほぼ満席となりました。講演が始まると、栗原先生の、「紫式部日記」や和歌などに基づく本格的でありながら、わかりやすく整理された話に会場全体がどんどん引き込まれていきました。複



数の資料を分析、考察することで浮かび上がるその人物像には大変説得力があり、一千年の時を超え、紫式部という一人の女性を身近に感じることができました。

北杜ふれあい塾の企画・運営を担当するのは、北杜市生涯学習課です。市民のニーズを見事にとらえ、コンサートや講演会など魅力あふれる企画を提供し続ける同課社会教育担当、小清水治紀さんに話を聞きました。

★北杜ふれあい塾のコンセプトはなんですか？

——人との出会いと学ぶ楽しさを追求することです。

★企画を考える際、意識していることについて教えてください。

——今年2月の令和5年度特別回ではアンデス音楽を取り上げました。「塾」と名

前のつく学びの機会なので、(音楽であれば)普段聞かないような音楽や楽器に触れることが大事なと思っています。内容が重ならないようにすることも意識しています。今年度、過去一回も取り上げたことがなかったサクソ演奏を企画しました(第1回で実施済み)。

★市民のニーズをどのように見極めていきますか？

——アンケートを次年度の企画に活かしています。昨年度、ギターを聴きたいという方がいたので、今年度の企画として地元のアンダルシアギターアンサンブルに声をかけることになりました(第3回で実施予定)。受付前の人集まり具合からニーズを図ることもあります。

★北杜ふれあい塾に込める思いや伝えたいことをお願いします。

——去年はこれだった、今年はこれだったというふうに、参加した方の記憶に残る企画ができればと思っています。高校生以下は参加無料なので、できるだけ若い人にも来てほしいです。

企画内容の決定からチラシの作成に至るまで「創っている感覚」を楽しんでいると話す小清水さんから、地域への熱い思いがひしひしと伝わってきました。楽しむ気持ちはそのまま質の高い仕事につながっているとも感じました。これからも北杜ふれあい塾に注目していきたいと思っています。





前日の雨の影響か、少し涼しさを感じる9月4日早朝、甲府城西高校(田代剛久校長)の野球部を訪ねました。同校野球部は、毎週水曜日の始業前、地域に出かけ、ごみを拾う活動を行っています。

遠方から通学する生徒が多い中、この日も、7時半前には1、2年生全員が集合し、6つのグループに分かれ、グループごと異なるコースを巡り、ごみ拾い活動をしました。キャプテンの相馬寛太くん(2年生)と1年生3人のグループに帯同させてもらったところ、思っていた以上に多くのごみが路上に捨てられており、衝撃を受けました。生徒たちは、ビニール袋や空き缶、ペットボトルなどの大きなごみから、たばこの吸い殻をはじめとする小さなごみまでを次々と見つけ、拾い、袋に集めていきます。あっという間に袋にごみが溜まっていきました。声をかけ合いながらの連携のよさ、手際のよさが印象に残りました。



有志のみで行っていた活動を現在のよう形にしたのは、宿澤元樹監督が14年前に赴任してまもなくのことだったそうです。以来毎週水曜日は、野球部にとって「チームで取り組む地域貢献の日」となっています。

宿澤監督は、活動について、「夜遅くまでグラウンドで練習をしているので、灯りとか音とかの面で迷惑をかけている。その恩返しとしての意味を込めている」としつつ、それに加えて「最近強く思うのは…」と、熱い口調で次のように述べました。



活動後、全員で振り返りを行いました。一番手前がキャプテンの相馬くん。

「世の中にはごみを捨てる人間がいて、捨てないけど拾わない人間がいて、善意で拾える人間もいる。この3種類のうち、生徒には最後(=3つ目)の人間になってもらいたい」

「毎週毎週(水曜朝に)来て、高校時代はわずらわしいと思う部分があったとしても、その習慣が身に付くことで、社会に出たとき、落ちているごみがあったら、自然と拾える人間になってほしい」

キャプテンの相馬くんにも話を聞きました。相馬くんは、監督と同じく「地域への恩返し」という意識を持って取り組む中、この活動が「先輩後輩のコミュニケーション」の大切な機会となっており、部活動にもよい影響を与えていると指摘します。相馬くん自身、昨年1年生としてこの活動に取り組んだ際、「先輩と一気に話せるようになったり、いろいろ聞きやすくなったりした」のだそうです。

活動の途中、地域の方から、「ありがとう」と声をかけられる場面がありました。野球部の活動が地域に根付いていることははっきりと感じる瞬間でした。

競技力だけではなく、心も磨いている甲府城西高校野球部に、最大級のエールを送りたいと思います。



図書館で豊かな時間を過ごそう

～昭和町立図書館イベントより～

夏真っ盛りの8月3日土曜日午前、昭和町立図書館で行われる2つのイベント取材しました。

心の琴線にふれるクラシックギターの美しい音色

一つ目は、昭和町在住のトップアマチュアギタリスト山上浩幸さんによる「ギターの調べ」です。10時の開館と同時に人が集まり、まもなく演奏が始まりました。山上さんは音色を確かめるように目を閉じ、弦を爪弾きます。やさしく澄んだ音が辺りに満ちていき、外のじりじりとした暑さが嘘のようです。この日は、アンコールも含め、約30分間で全9曲が演奏されました。



タレガ、アギーレの曲や「禁じられた遊び」、「ムーンリバー」など多彩な楽曲を堪能することのできる贅沢なひとときでした。山上さんにどんな思いで演奏しているか尋ねると、次のような答えが返ってきました。

「とにかく音楽が好きなんですよね。聴いてくれた人が、なんかいいなあと思ってくれればそれでいいんですよ、単純に」

この「なんかいいなあ」には、山上さんによれば、曲を味わっての「いいなあ」と技術的なことへの「いいなあ」が含まれるそうです。「(演奏を通して)その両方を伝えていけたら」というのが山上さんの願いです。常連参加者の一人は、このイベントについて、「CDでギターを聴くきっかけになりました。生演奏は特別なので毎回とても楽しみにしています」と話しました。次回「ギターの調べ」は10月19日ですが、その前の9月28日には「夕暮れコンサート」も計画されています。皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか。

親子で楽しもう!「幼児向けおはなし会」



二つ目は「ききみみずきんおはなしの会」のいさおさんと職員の柿澤敦実さんによる「幼児向けおはなし会」です。じゅうたん敷きの幼児コーナーで11時からスタートしました。手袋人形から始まり、素ばなし、絵本の読み聞かせ、紙芝居、わらべうたと親子で盛りだくさんの内容を楽しみました。絵本等の選択については季節感を大事にしているそうです。今回は「夏」ということで、話の中に花火やおばけが出してきました。柿澤さんは、「図書館を訪れる」ことについて、次のように話します。

「最初から本を読むという目的でなくてもいいんです。涼むだけでもいいし、面白いことをやってるから行ってみようと思って、それでたまたま棚を見たら面白そうな本があって借りに来てくれるとか。それでいいんです」

まずはできるだけたくさんの人に図書館に来てほしい—柿澤さんの言葉からそんな気持ちが伝わってきました。そして、今回の「おはなし会」も、たくさんの人に訪れてもらうためのきっかけ作りの一つなのだということがわかりました。多くの人に気軽に来てほしいという考えは、「おはなし会」の運営方針にも表れています。

「お母さんが自分の子どもが迷惑をかけているんじゃないかとか気にすることがあるかもしれないけど、私たちは気にしていません」(「ききみみずきんおはなしの会」三橋孝子さん)

「子どもってすごく器用でね、大人から見ると遊んでいるようでも耳だけは聴いている。遊んでいてもいいんじゃないかな」(いさおさん)

2回目の参加だというお母さんは、前回紹介された本は全部借りていったと話していました。柿澤さんたちの願う通り、イベントがきっかけ作りに確かになっていると感じます。

昭和町立図書館では、他に「012才児向けおはなし会」「読み聞かせ講座」「落語会」「大人のためのおはなし会」なども実施されています。来年開催されるという35周年記念イベントも今からとても楽しみです。

#中北バトン 様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを語っていただきます。

一般社団法人甲府青年会議所 第73代理事長 東原 広幸

一般社団法人甲府青年会議所では1951年の創立以来、73年間にわたって地域住民の皆様とともに明るい豊かな社会の創造に向けて活動してまいりました。甲府大好き祭りや小江戸甲府の夏祭り、信玄公まつり前夜祭(湖衣姫コレクション)等、地域住民参加型のイベント企画やビジネスリーダーの育成など、あらゆる社会課題の問題解決に向けて活動し続けてまいりました。



昨今では、記憶に新しい新型コロナウイルス蔓延による被害が、身体に影響を及ぼすだけでなく、人と人とのコミュニケーション方法にまで変化を起こさざるを得なくなりました。特に影響を受けたのは地域の未来を担う青少年の育成ではないでしょうか。非対面式のコミュニケーションが増えた結果、

上手な対人コミュニケーション能力を養える場を失ってしまったのではないかと危惧しておりました。そこで、我々甲府青年会議所では、青少年の健やかで健全な育成をするべく様々なプログラムに取り組みました。2024年度は、青少年育成事業として、昇仙峡トレッキングに始まり、金峰山への登頂や御嶽古道キャンプを行っています。9月8日には、金峰山登山者に向けて青少年が作成した魅力マップのプレゼン大会が行われ、選ばれた魅力マップは、実際に各地の商業施設や店舗に配布されるので、ぜひ現物を手に取って楽しんでいただければと思います。



これからも甲府青年会議所は地域を明るく照らす青少年の育成に力を入れ、自らが住んでいる地域に誇りを持つよう活動していく所存でございます。温かいご支援をいただければ幸いです。



～紙面を飾ってみませんか～

地域教育情報紙『中北.com』は、年6回、奇数月に発行し、中北地区500か所以上に配付しています。学校や地域、諸団体での様々な取り組みをぜひ取材させてください。お問い合わせは下記まで、お気軽にお声がけください。

令和6年度『中北.com』No. 3 編集・発行 中北教育事務所 担当 内藤 賢・望月 亜由
〒407-0024 韮崎市本町4-2-4 電話 0551-23-3046 FAX 0551-23-3013